

## まちづくり調査特別委員会会議録

1 開会日時 令和5年6月13日（火）午後3時8分

2 閉会日時 令和5年6月13日（火）午後3時44分

3 会議場所 熊山支所大会議室

4 出席委員

1 番	牛尾 直人君	2 番	鼻岡 美保君	3 番	安藤 利博君
4 番	永徳 省二君	5 番	大森 進次君	6 番	光成 良充君
7 番	保田 守君	8 番	大口 浩志君	9 番	治徳 義明君
10 番	原田 素代君	11 番	金谷 文則君	12 番	松田 勲君
13 番	福木 京子君	14 番	佐藤 武文君	15 番	下山 哲司君
16 番	実盛 祥五君	17 番	佐藤 武君		

5 欠席委員

なし

6 説明のために出席した者

総合政策部長	倉本 貴博君	総務部長	戸川 邦彦君
財務部長	杉原 洋二君	建設事業部長	高橋 渉君
総合政策部参与兼 建設事業部参与	岡本 和典君	政策推進課長	山崎 和枝君
地域整備推進室長	森本 祐司君	政策推進課主査兼 地域整備推進室主査	池田 純君

7 事務局職員出席者

議会事務局長	土井 常男君	副参事	野田 順子君
主幹	岡野 哲浩君	主任	平尾 和也君

8 協議事項 1) 視察、研修について

2) その他

午後3時8分 開会

○委員長（金谷文則君） それでは、大変皆さんお疲れさまでございました。

ただいまからまちづくり調査特別委員会を開会いたします。

本会議が終わってすぐで、大変皆さんもお忙しいとは思いますが、的確に、速やかに必要なことをやっていきたいと思っておりますので、御協力のほどよろしく願いをいたします。

換気のために会議室の出入口を開けておりますので、御了承のほどお願いをいたします。

それでは、協議事項に入ります。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 下山委員、何でしょうか。

○委員（下山哲司君） 始める前に気分をすっきりさせてもらわなったら、どうも委員会がええ具合に進まんのじゃねえかと思うんで。私の意見も聞いていただけますか。

○委員長（金谷文則君） 端的にお願いいたします。

下山委員。

○委員（下山哲司君） この委員会を提案したのは私なんですけど、その当時、ただ一人反対されとった。今になって、私は直接聞いてないんですけど、反対しとらなんだと言われるんですけど、もうはっきり言われたんですから、私は反対だからと。実盛議長のときに全協をやって、そのことをきれいにすっきりしとかにやいけんからと思うて意見を発したんですが、この場でそういうことをするもんじゃないということになったんで、今日になったんです。

だから、あのときに言うとか、もうそのまま済んで、穏やかに議会運営が進んでいきよんじやと思うんですが、自分が提案したことが皆さんに御理解を得て、いい方へ進むんなら、私もやっていく気持ちはいいですけど、山陽新聞を見てびっくりしたんですよ。何か反対しとった人が自分がやったように。市民の人が見たら、これは佐藤議長がやったように誰でも見えるという意見なんですよ。

そういういろんな諸問題が起きるのは、17人もおるんですからあると思います。しかし、諸問題が起きたときには、速やかにそれを解決して先に進むのが、議員全員17人の務めだと思うんですよ。議長たるものが、立候補するときにそういう問題をそっちに置いて議長になったら、私は反対してなかったと言うて、私には反対しとると言われたんです、みんなの前で言われたんですけど、びっくりしたんです。

いいことだから進めてくれということで皆さん御協力いただいて、この委員会が設立できたんだと私は理解しとったんです。だけど、その当日だって私は反対じやと言われといて、新聞でこんなことを言われたら、腹が立って、いろんなことで協力できんと思うのが今の気持ちです。

後は委員会の中ですから、私一人しゃべっても、委員長に取り計らいのほうを。

○委員長（金谷文則君） 思いをお聞きしました。

佐藤議長、その辺のところ、協力いただけるのかどうかということだけを皆さんに理解いただけるように発言をお願いします。

○委員（佐藤 武君） 新聞記事、私の議長就任に当たっての山陽新聞のインタビュー記事のことであろうと思います。

そうした中で、まちづくり調査特別委員会を設置したというのは、記事にも記載しておりますとおあり、3月に設置したというふうに記載されてると思います。それで、3月は私はまだ議長には就任しておりませんので、その文章を読めば私が設置したということにはならないのではないかなというふうに思います。

それから、特別委員会の設置については、本会議で採決したと思いますけれども、その時点では全員一致で反対者はいなかったと、その中の一人、私も賛成した人数に入っております。

それから、まちづくりの委員長、副委員長を選任するに当たってのやり取りが若干あったのかなと思いますけれども、そのとき私は総務委員長でしたので、総務委員長が副委員長をやるべきではないかというような御提案があったんですけども、私はそのときには、特別委員会を設置することには消極的な考えなので、副委員長になることは御辞退申し上げますということを行ったのであって、反対ですということは言っておりません。

以上です。

○委員長（金谷文則君） 下山議員、納得されますか。

下山委員。

○委員（下山哲司君） そういう話をすると余計の行動というのかな、反省心が全くなしにやられるということに関して、昨日も相談があるからと行ったら、ほかの人がこういう意見も言われるから協議せにゃいけん、私の見解というて、それだったらなから相談せにゃえんです。それと一緒に、これも。

人をばかにしたような言動、今日も最後の佐藤議長に対して、答弁を求めますかと。

○委員長（金谷文則君） 逸脱しないように。

○委員（下山哲司君） それも一緒に、これは全部。じゃから、議長を続けられるんなら、そういう反省をして、自分の見解でやり切れるもんじゃないんで、穏やかにやれるように反省してもらうんなら私も矛を収めるけど、ずっとこれじゃから、昨日も今日もこの前も。それで、言うてねえと私にはっきり言うたと何人も聞いとんじゃから。なんぼ本人が言うたって言うとなんじゃから、ただ一言、すまんなんだとあのときに言うとなら終わるんじゃ。それをどう言うたよ、私の反論もありますから、こう言うたんよ。そんなことを言われて穏やかにやれるか。私の反論もあると言うたんじゃから。反論してください。

○委員長（金谷文則君） 佐藤議長。

○委員（佐藤 武君） 下山委員の御気分を害したのであれば、まずおわびを申し上げますけれども、昨日は通告外の答弁がされてるんじゃないかというようなことがあって。

○委員長（金谷文則君） 昨日のことは誰も知りませんので、お話しただかなくて結構です。

○委員（佐藤 武君） いやいや、下山委員が言われたので。

○委員長（金谷文則君） それだったらやめてください。

委員長の私から皆さんに申し上げます。

これは、我々赤磐市議会議員として必要な委員会をここで設置するという事で、最初いろいろ皆さんでの議論の中で理解のし難い部分もあったかもしれませんが、最終的には本会議の中で全員が賛成をしたという事実で、全て皆さん協力いただくという事で進めさせていただきます。そうじゃなかったら、前に進みません。

今の下山委員の御意見も、それから議長の御意見もあろうかと思いますが、しっかり皆さんに協力いただくという事でお願いをしたい。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） 下山委員、よろしいか。

○委員（下山哲司君） 私の方がまだ収まってないんで。

○委員長（金谷文則君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 委員長が今そう言われたけど、この委員会といえども、議長の下にあるんです。

○委員長（金谷文則君） そうですよ。

○委員（下山哲司君） その議長と委員にトラブルがあるようなことでうまくいくわけねえんで、委員長が間で苦労するだけになるんで、その辺はきちっと。

○委員長（金谷文則君） 議長、ちゃんとこれから今の誤解のないようにしっかり協力してやっていただけるということだけ一言、もう一遍述べていただけますか。

○委員（佐藤 武君） 私の発言で誤解があったかもしれません。お腹立ちがあったかもしれませんが、この委員会でスムーズに進めていただきたいと思いますので、正副委員長、よろしくお願いいたします。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 一つだけけりをつけてもらわにゃいけんのじゃけど、私にも反論があるとされていて、そのけりがかたがたに、委員長が言うたからほんならというて終わるんか物事が。人間、相手には感情があるんよ。自分が言うたこと責任ぐらい自分できちんと取りなさい、委員長じゃなしに。それが、議長を務めるこれから先のステップじゃろ。それもできんような者が議長を務まんよ、これから。私は協力せんよ。

○委員長（金谷文則君） どういうふうにしたらよろしいでしょうか。

○委員（下山哲司君） じゃから、その反論があるとかなんとかと言うたのは。取り消します

んで一言断りをしてくれたら、それで済むんじや。ずっとこれじゃけ、反論があるじゃ何じやというて、相手に対して。

○委員長（金谷文則君） 下山委員、分かりました。

議長、今の御意見なんで、もしその理解がお互いができてねえところがあるかもしれませんが、反論があるとかってということについての今、下山委員からの御意見ですが、そのことについて自分の思いのことも、ああせえこうせえっていうわけではありませんので、議長の口からお考えをお述べいただきたいと思います。

○委員（佐藤 武君） 反論があるということで、不快に思われたんだったら申し訳ないです。取り消させていただきます。すいません。

○委員長（金谷文則君） 下山委員、御理解ください。

○委員（下山哲司君） 今も言うように、その反論というのがどこから出て来るのか、つい口が滑ったとか、自分がそのときにあれだったからとか、何かなげにやあ。言うてえて何も理由なしで、ほんならそれで終わるんかという話、そんなの小学校の子供じゃあらへんのじゃから、きちっとそういうときの状況を述べて、そういうことがあったので申し訳なかったというんが筋じゃろ。私だって、この前でもすぐ断りをしたろう。

○委員長（金谷文則君） それはそれとして。

○委員（下山哲司君） 自分が悪いと思うたらすぐ断りをせにやいけんわ。そうせにやあほかの者に迷惑がかかるんじや。自分だけで済むんじやねえよ。

○委員長（金谷文則君） ほんなら今のことを踏まえて、再度、最後にこれでお願ひします、前へ委員会を進めたいと思いますので、お願ひいたします。

○委員（下山哲司君） 一つだけ言うとか。私が何を言われる理由がねえんじやから、反論を。あなたに反論せられる理由も何もねえのに、そういうて言われること自体が。

○委員（佐藤 武君） いや、私は反論というのは申し上げたつもりはないんですけど。

○委員（下山哲司君） 誰に対しての反論じゃ。

○委員（佐藤 武君） 下山委員の御意見に対して私が反論すると言ったことについての取消しをしますので、申し訳ございません。よろしくお願ひします。

○委員長（金谷文則君） じゃあ、そのように御理解ください。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 先ほど下山委員からも発言があったように、このズームアップという山陽新聞の記事を見られて、不快に思われた市民の方がおられる、私にもそういうことを言うてこられた市民の方がおられました。そういう中で、今日も山陽新聞の赤磐支局長が傍聴しておられます。前回も、この事件があったときに、傍聴されておられながらこのような記事を書かれたということに対して、山陽新聞に委員長として意見を述べといていただきたいというこ

とを申入れさせていただきたいと思いますので、山陽新聞に今後このようなことがないようによく気をつけていただきたいと思いますというは、申入れをしといていただきたいと思います。

○委員長（金谷文則君） 分かりました。

今佐藤委員から言われたことについては、委員長から責任を持って山陽新聞へ、こういうことがあって、今後そういうことのないようにということで申入れをしたいと思いますので、御理解ください。よろしいでしょうか。皆さんよろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それじゃあ、冒頭がたがたしましたけど、気を取り直して、しっかりまちづくりの委員会のために御協力のほどお願いします。

それでは、進めたいと思います。

協議事項の1番目、視察、研修についてということで、ここで、前回皆さんに御意見をいただいて、進め方については大方の御了解をいただきました。視察をすることとか、それから市民の声を聞くとか、そういうふうなことで進めさせていただくということになっております。それについて、これからどうやってやろうかということを経営部と副委員長と私と事務局との中で調整をいたしました。

それで、今日お集まりいただいたんですが、執行部がこの間、幾つか視察に出向されました。それについて、先にちょっと報告をいただいて、その中で私のほうにも話をいただいたんですが、現地の視察へ行く前に講師の方を招いて、現状とか問題点とか、そういうことの一編、勉強会をやったほうがいいんじゃないかということもありましたので、その辺の感じられたことも含めて、執行部から視察された内容を簡単にかいつまんでお話をいただきたいと思いますので、皆さん、お聞きいただけたらと思います。お願いします。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） それでは、先進事例の視察を行ってまいりましたので、資料を御覧いただけたらと思います。

それでは、視察の報告資料を御覧ください。

2ページ目ですが、目次としまして、今回、複数箇所、職員で視察に行ってまいりました。その中で、先方が対応してくださったところ4か所を今日、簡単に御紹介をさせていただけたらと思います。

3ページを御覧ください。

1番目としまして、道の駅グランテラス筑西でございます。

茨城県筑西市です。筑西市ですが、平成17年に下館市と関城町、明野町、協和町で合併をしまして、人口10万人、当初予算規模は448億円でございます。

6ページまでおはぐりください。

こちら、グランテラス筑西でございますが、アプリ活用やネット販売等に注力をされておまして、ここの道の駅での直売はもちろんでございますが、全国展開をされているという、複合型ハイブリッド道の駅ということで、注目をされているところでございます。

3世代が一日楽しめる観光スポットということを目指しておられまして、視察に行った当日は平日でございましたけれども、親子連れといたしますか、そういった方も複数見られました。地域住民への弁当や食材の配送サービスや、それからいわゆる出品をされる農家の個別訪問で集荷も行っておられました。

次に、10ページまでおはぐりください。

道の駅うつのみやろまんちっく村でございます。

栃木県宇都宮市、人口は51万8,000人、令和5年度の当初予算規模は2,190億円で、赤磐市からいうと約10倍の規模でございます。敷地面積もかなり広うございまして、もともと宇都宮農林公園であったものを、再生ということでこちらが手を挙げられまして、指定管理で道の駅ということで再生を行っておられます。

12ページの資料の中で、駐車場のところですが、普通車63台というふうに書いてございます。こちらは、第1駐車場、いわゆる道の駅の物販のところにあります駐車場が63台ということですが、施設全体とすれば1,100台分の駐車場を構えておられます。

次の13ページを御覧ください。

先ほど申し上げましたが、もともと農林公園であったものを、平成24年に道の駅としてリニューアルしておられます。地域商社である民間会社が指定管理で運営を行っておられまして、道の駅を核としました地域連携として、自社の開発商品や地域ブランドの育成ということで、全国にこの商品売り込んでおられます。こちら、高齢農家のために、出品農家の軒先集荷というものを実施しておられます。

次に17ページを御覧ください。

3か所目は、道の駅常総でございます。

茨城県常総市、人口約6万人、予算規模は241億円ということで、この4か所の中では比較的赤磐市に近い規模だというふうに思います。

1つはぐっていただきますと、こちらアグリサイエンスバレー常総といいまして、インターチェンジを中心としまして、農業エリア、都市エリアを集積して、生産、加工、流通、販売ということで、農業の6次産業化を目指しておられまして、これらが一体となった産業団地構想によりまして、農業を活性化するためのまちづくりを目指すということで、構想を立ち上げておられます。

20ページを御覧いただきまして、こちら、行ったときはまだ開設前でございましたが、TSUTAYAや温泉施設も今後オープン予定だということでございました。

2015年に発生しました鬼怒川氾濫の浸水被害に遭われた、その土地だということで、地上げ

をして施設を構えられたということで、2階建ての道の駅で、いざというときに避難場所として使えるようにということで、それから隣に民間の工場等もございしますが、こちらもいわゆる災害支援物資等の保管をしていただいているというような、そういう対策も取っておられるということで、災害拠点、防災拠点としての役割も担っておられるということでございます。

次に24ページを御覧ください。

4つ目でございますが、道の駅しょうなん、千葉県柏市でございます。

人口42万6,000人、予算規模は1,499億円ということで、都心に近いということもございしますが、大きな町でございます。

こちらですが、27ページを御覧いただけたらと思いますが、都市部と農村部をつなぐエントランスパークということで位置づけられておりまして、交流人口の増加を図るという役目を担っておられます。

視察当日も平日でございましたが、地域の女性グループと思われる方が複数、いわゆるお茶会といいますか、そういったものをされておられたということで、あの地域の交流の場になっているんだなというふうに感じました。

この4か所を今日御紹介させていただいておりますが、全て民間事業者が指定管理ということで運営を行っておられます。前回の委員会におきまして、多くの委員の方が民間活力の必要性ということで御発言がありましたが、私たちも今回、こういった視察をしまして、その必要性というのは十分に感じてきたところです。

それぞれの運営事業者について、もう一つ別資料にまとめておりますので、こちらは後ほど御確認いただけたらと思います。

また、前回の委員会で視察をしたらどうかという御意見も多数あったかと思っております。先ほど委員長もおっしゃられましたけれども、ここで視察ということも後日、御検討いただけたらと思っておりますが、視察を行う前に手始めということで、この運営事業者をこちらへお招きして、皆様にお話を聞いていただく機会を設けていただけたらどうかと考えております。

私からの説明は以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

たくさん資料を取ってきていただいているので、一度帰って、この中をよく見ていただいて、質問等があったら事務局へ出していただいたら、それに対する回答とか、そういうのをまた対応していきたいと思っております。

それで、今、執行部からもあったように、視察に行く前にできたら一遍、実際に道の駅等を運営されてる方の生の声、そういうものを聞くべきであろうと私も副委員長も話の中で思っております。7月になるかどうか分かりませんが、一応進め方としては一遍お招きをして、みんなの前で生の声を聞いて、それからまた次の委員会とか視察へ向けていきたいと思うんですが、方向的にワンクッション入りますけどどうでしょうか、そういう形を取らせていただい

て。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 賛成です。事前に行って、その雰囲気にもまれていいねってなるよりも、リアルにその準備段階からどういう経緯の中でしてきたのかっていうのを学びたいと思うのと、あと岡山県を見て、いつきのブームであちこちに道の駅ができたけれども、今行ったら何かもう寂しいなという道の駅がいっぱいあるわけです。

結局、今、私たちが議論しようとしているのは、にぎわいだの活性化だのと言うけれど、魔法の小づちがあって、子供が急に生まれたり予算が急に増えるわけじゃなくて、引き続きなだらかな右肩下がりの中で新たな事業を起こそうとしているという自覚を持ってやらないと、何となく新しく何となく民間だから、にぎやかしてっていうことにならないような自覚を持って私たちは臨まなきゃいけないなってすごく思っています。

それからこういうところはほとんど最近のトレンドとしてやってらっしゃるからきれいなんでしょうけども、実際彼らがやって、過去にやって今どうなってるのかとか、その辺は、私たちはしっかり現実を見ておくっていうのは必要じゃないかなという問題意識がございます。

以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

まさにそのように考えておきまして、今回執行部からの話を聞いて、まずその運営をするというか、道の駅とかそういうものができるまでのプロセス、どういう形でこれが出てきたのか、そこにどういう問題があったのかっていうことを直接やられている方に聞いて、私たちも気がつかない部分は多分にあると思うので、それで本当に我々がこれから準備しなければならないものとか、それから考えていかなきゃいけないこと、それと一番はこの赤磐市全体のまちづくりということの中の今回の道の駅のことであったり、それから取り残されないような旧町の形、町をどうやっていくかということも併せて考えていかなきゃいけないので、そのことも含めて、順次、勉強して、本当に必要な必要なものを作っていくということにしたいと思いますが、勉強会をまずするというところで御了解いただいてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それじゃあ、そのような段取りを執行部、事務局それから私たちが進めさせていただきまして、また皆さん方に御連絡をさせていただきますので、短い時間でいつも委員会になりますけど、経緯を皆さんに分かっていただきながら進めていきたいと思っておりますので、今後とも協力のほどどうぞよろしくお願いをいたします。

そういうことで、よろしいでしょうか。

○委員（永徳省二君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 永徳委員。

○委員（永徳省二君） 今道の駅の話をごここでやっておりますが、私がおもうには、本来、全体的な新都市という大きな構想があつて、その中の一つが道の駅じゃないかなつて思つてゐるんです。この全体像を見ていかないと、例えばどんな企業が来るのか、ホテルができるのか、それによつて当然この道の駅の要素つていうのはまた変わつてくるんじゃないかなと。ある意味、ディベロッパーか何かのもつと大きな話を聞いて、こういう構想になるんですよと、その中でこの道の駅はこういうコンセプトでつくつていかなあかんという話に持つていかないと、全くピントがずれる可能性があるんじゃないかなと懸念してゐるんです。

○委員長（金谷文則君） まさに、だから、今申し上げたように、赤磐市全体のまちづくりはどうなのかというところから、今度は道の駅周辺の開発というか、発展はどうするのかというところに落として、その中にまだ道の駅つていうのがあつるので、今進んでゐるのは、道の駅ということをごまずやりましようということは、執行部も考へておられる、これは決定してありますので、企業が来るとか、それから周りの設計というのはこの先の話になりますので、取りあへず道の駅ということがはつきりしたことについては、どういふものなのかという理解を皆さんにしていただいて、じゃあその周りにどんなものが来るのか、我々がじゃあどういふものが必要なのかという意見を出して、それを執行部が絵にしていったり、それから先、どつかに頼んだりとか、そういうことになるかと思ふので、まず入りやすい道の駅からスタートさせてください。御理解をよろしくお願ひします。

○委員（安藤利博君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 安藤委員。

○委員（安藤利博君） せつかく委員長のあれで、水を差すつもりはないんですけど、執行部に事前視察いただいて御苦勞さまなんですけど、私も柏市にいました。これは4件、今全部見ませんが、柏市と赤磐市を比較しても、これはまるで参考になりません。せつかく行つていただくとすれば、赤磐市と似たようなところを見ていただかないと参考にならないのと、それと私は一般質問でこれから赤磐市はどうなるというのを含めて質問させていただいたつもりなんです。原田委員が徐々に右肩下がりと言われたけど、そんな生易しいもんじゃないと思つてゐるんです。激減します。既に2割以上減少してゐるんですから。その赤磐市の将来を見て、本当に必要なのは道の駅とは限りません。道の駅もここでじゃないほうがいいと個人的には思つてますけど、本当に赤磐市の10年、20年後に必要なものかどうか、それを今我々の責任で考へないと、やっちゃつた後で当時の議員は何やつてたんだと言われないうに詰めておかないと、幾らかかるのかも分からない、まだ分からないことだらけなんで、もう道の駅ありきで進むのは、私は懸念してゐるんで。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

もちろんそんなので、道の駅をどんなものかみんな知らないんで、まずやつておられる方に道の駅つてどういふところでどういふ苦勞をしてどうやつてつくつてきたかというのをまずお

聞きをしないと、分からないと思うんです。規模が違う、いろんなどこ違うかと思えますけど、違うんなら、また今言うたように合うようなところを探していくとかというのをこの委員会の中でみんなでやっていきたいと思うんで、まず何かのうったてをみんなの共通理解の下にスタートしたいと思うんで、勉強会をさせていただきたいと思いますが、よろしいか。

松田委員。

○委員（松田 勲君） 私も委員長が言われるとおりでと思うんです。さっきの柏市とか大きいなと思ったんですけど、ただ、今若い人たちとか、いろんな方が求めているものが何かというのは、大小関係ないところがあると思うんです。だから、大きいところは大きいとこの、何でそれが人気があるのかとかというのは、要素というのは必要だと思うんで、小さいとこばかり見るよりも、大きいとこも見ながら、併せてしっかりコンセプトを立ててやっていったほうがいいんじゃないかなと思いますんで、だからあまり既成概念にとらわれずに、自分の身丈に合うたようなとこだけじゃなくて、いろんなどこを見た上でしっかり検討していったほうがいいものができるんじゃないかと思うんで、よろしくをお願いします。

○委員長（金谷文則君） だから、私が言いたいのは、皆さんに共通に持っていただきたいというのは、新しい大きなところも小さいところもいいんです。それは2番目のことで、まず道の駅をつくる手順、例えば住民の声があつてその道の駅をつくるようになったとか、それから行政が道の駅をつくるというのを落として、そこから派生していくのか、それからそこをつくるまでにはどんな苦労があつたのか、どういう手続があつたのか、それが後にうまく運営できているのかどうなのかといたりすることを、一遍やられた方に話を聞いて、皆さんが言われたようなことの質問を投げかけて、返ってくる答えに対してまたみんながどうするかというふうなことをやっていったほうがいいのかなと思うんです。そうしないと、全く頭の中にない、道の駅は買物には行ったことはあるけど、自分たちがつくったわけではないので。

それから、何回か産建で視察に行ったときには、地元の人たちが声を出して、地元の人たちが協力しなきゃあ成功しないということは言われてます。だから、本当にそうなのかどうなのかとか、他のやり方があるのかどうかということも含めて、みんなが共通に勉強していかないといいものにはならないと思うんで、ぜひそれぞれの意見を聞きながら進めたいと思いますので、まず何かうったてをしていきたいと思いますので、ぜひ御協力のほどをお願いします。

よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それでは、最初にがたがたしましたけど、みんなで協力をしていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、本日のまちづくり調査特別委員会はこれにて閉会をしたいと思います。

大変御苦労さまでございました。

午後3時44分 閉会